

科目名 (科目番号)	臨床検査総論演習 (時間割参照)	教員名 稲田 政則	学科等	臨床検査	選択	履修年次	4
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
			授業形態	演習	オフィスアワー		
授業概要	この科目は、臨床検査総論、臨床検査総論実習、医動物学、検査機器総論、情報科学、および、臨地実習で学んだ知識を整理しつつ、さらに周辺領域まで学習範囲を広げることで、総合的な知識へ高めることを目標とする。						
目的・目標	目的:これまでに学んだ、臨床検査総論、医動物学、検査機器、情報科学の知識を統合する。 目標:一般検査分野各検査項目の検査法と疾患、検査機器、情報管理などの知識を関連付けて説明できる。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授 業 計 画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	検査項目の選択	到達目標:臨床検査項目を体系化し、その使い分けを理解する。 学習内容:検査項目の全体像を概観し、臨床的意義に基づき類型化を試みる。				
	2	診断的価値	到達目標:検査法の診断的価値の評価法を理解する。 学習内容:検査法の研究開発、基準範囲の設定法を復習する。				
	3	検査マネジメント	到達目標:過誤を防ぎつつ、効果的・効率的な検査実務の在り方を理解する。 学習内容:自動化が進みつつ人的作業が共存する環境における最適なマネジメントを学ぶ。				
	4	検査機器	到達目標:各種計量器具、自動分析装置の特性を理解する。 学習内容:臨床検査で使われる器具や装置について、これまでの学内実習・臨地実習を振り返りながら、広く復習する。				
	5	尿定性検査・特殊検査	到達目標:尿検査の項目、測定法、意義、問題点を理解する。 学習内容:尿試験紙法項目や尿特殊検査項目について、これまでの学内実習・臨地実習を振り返りながら、広く復習する。				
	6	尿沈渣検査	到達目標:尿沈渣成分の形態や出現する背景を理解する。 学習内容:尿中有形成分について、これまでの学内実習・臨地実習を振り返りながら、広く復習する。				
	7	便検査・髄液検査	到達目標:便潜血検査および髄液検査の意義について理解する。 学習内容:大腸がん検診としての便潜血検査の価値、緊急性の高い髄液検査の診断的価値について、病態にまで踏み込んで復習する。				
	8	医動物学的検査	到達目標:寄生虫症、原虫症について理解する。 学習内容:人体に害を及ぼす寄生虫から衛生動物によって媒介される原虫まで、広く復習する。				
	9	情報管理	到達目標:情報管理の重要性を理解する。 学習内容:個人情報保護法、および、情報セキュリティに関連する各種技術を学ぶ。				
	10	比色分析	到達目標:定量検査の基礎となる比色分析を理解する。 学習内容:ランベルト・ベールの法則から分光光度計の特性まで、計算問題を中心に復習する。				
	11	尿試験紙法	到達目標:尿定性検査の方法論を理解する。 学習内容:現代の尿検査を支える技術を復習する。				
	12	尿中有形成分	到達目標:尿中有形成分を測定するための技術を理解する。 学習内容:尿沈渣の標準的作製法からフローサイトメトリまでを広く復習する。				
	13	不妊検査	到達目標:不妊の原因と各種検査を理解する。 学習内容:男性側不妊を中心に、その病態と精液検査を学習する。				
	14	衛生動物	到達目標:有害な衛生動物を理解する。 学習内容:原虫等を媒介する衛生動物を概観する。				
	15	寄生虫卵	到達目標:各種寄生虫卵の鑑別法を理解する。 学習内容:主要な寄生虫卵について概観する。				
成績評価の方法・基準	対面・オンライン共通：授業内小テスト（10％） 定期試験（90％）						
教科書	指定なし						
参考図書							
教員からのメッセージ	この科目は「演習」であり、練習問題(小テスト)を中心に進めます。上記の授業計画は順番に講義を行うことを意図したものではなく、この科目で取り扱う範囲を示したものと理解してください。総合病院で勤務した臨床検査技師がこの授業を担当します。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。						